



宮地エンジニアリンググループ株式会社

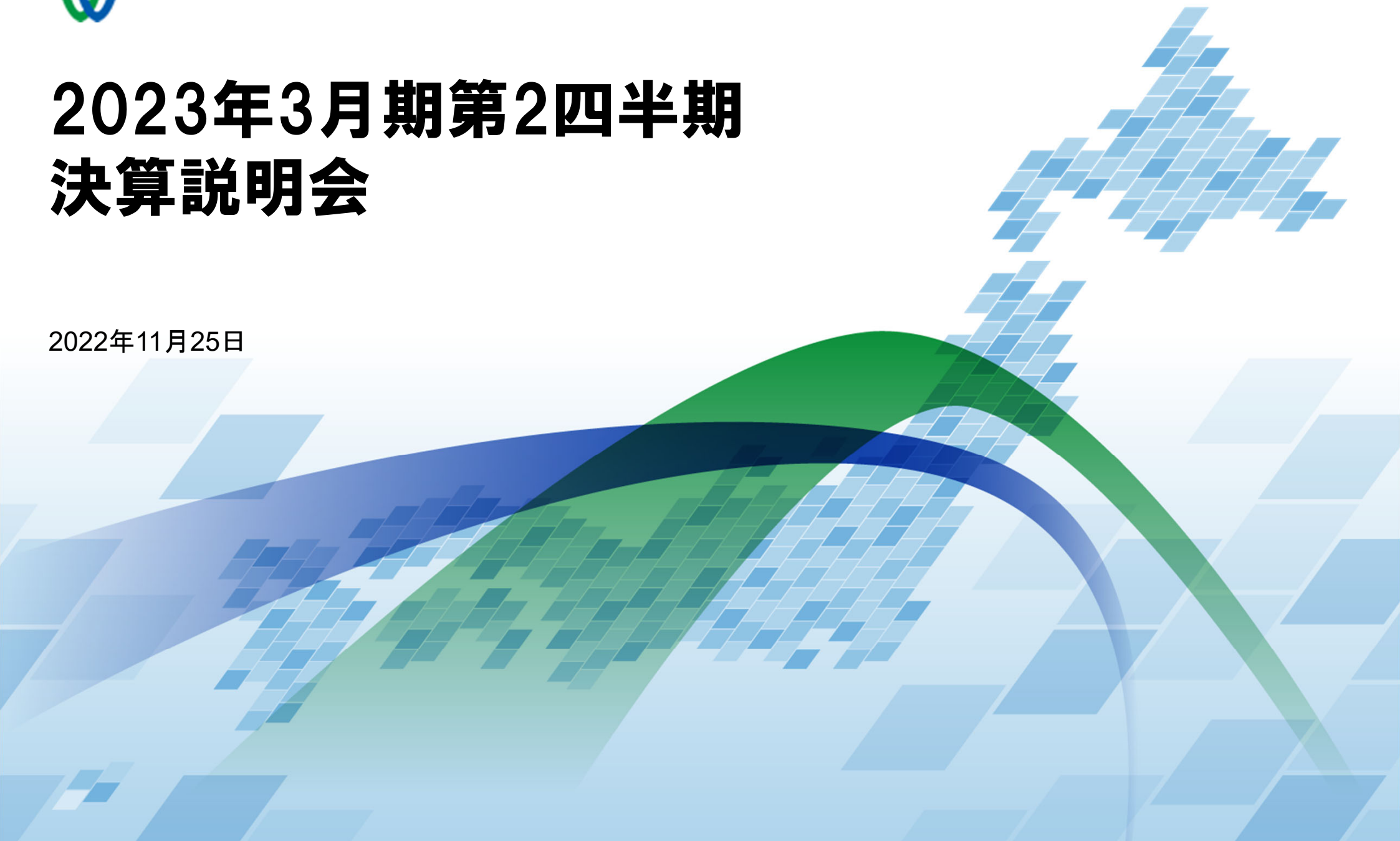


JPX-NIKKEI Mid Small

2021-2022 年度選定

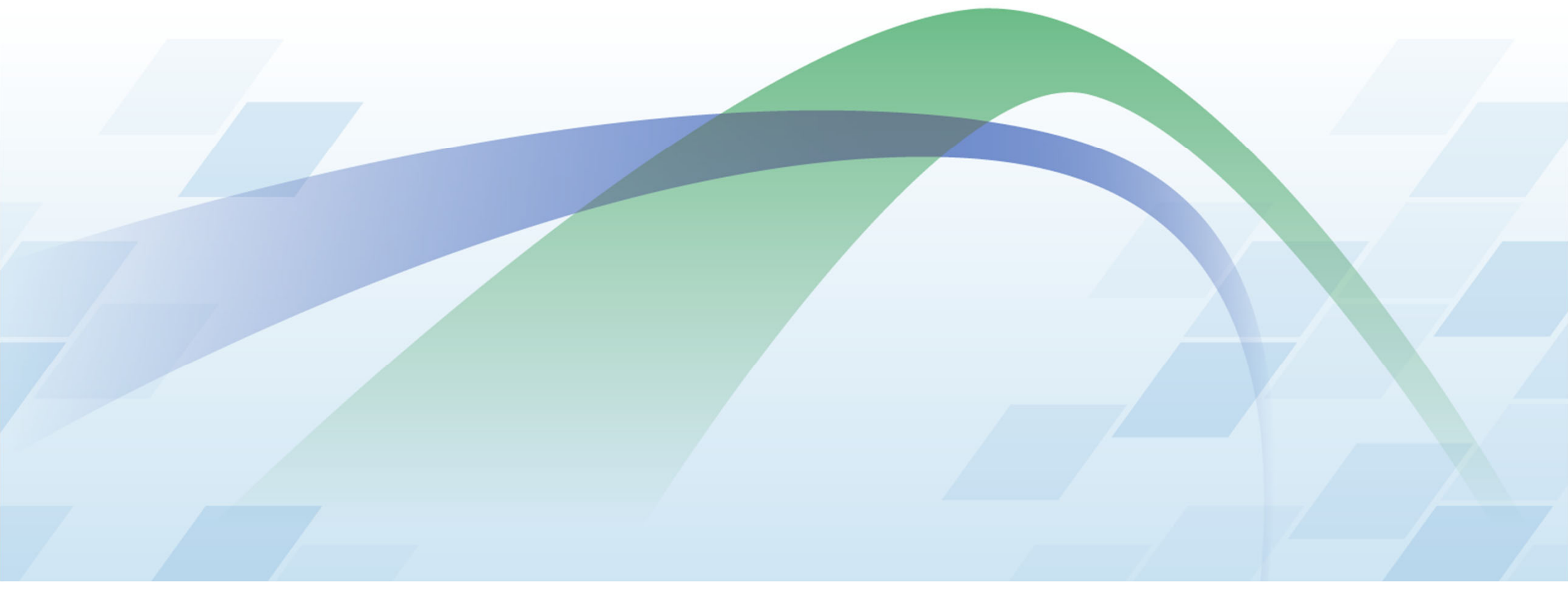
2023年3月期第2四半期 決算説明会

2022年11月25日



I. 宮地エンジニアリンググループについて	P.02
II. 2023年3月期第2四半期決算	P.13
III.2023年3月期業績予想	P.21
IV.中期経営計画の進捗	P.23
V.技術開発	P.34
VI.Appendix	P.43

I .宮地エンジニアリンググループについて



<宮地エンジニアリンググループの経営理念>

橋梁、建築、沿岸構造物等の
社会インフラの建設、維持・補修の事業を通じ、
豊かな国土と明るい社会創りに貢献する

宮地エンジニアリンググループについて(2/4)

当社グループの事業会社である宮地エンジニアリングとエム・エムブリッジは、国土交通省、高速道路会社等の官公庁から発注される橋梁の製作・施工を主力事業としております



発注者の発注枠内で経営していく受注産業であり、

その発注量は道路インフラ投資への官公庁の予算に左右されます

公共事業の受注は入札で決まるため、計画的に受注をする事が出来ない



受注を平準化して計画生産を行う事が難しく、損益に山谷が発生することがあります

宮地エンジニアリンググループについて(3/4)

◆ 主力の新設橋梁事業では、

高度成長期の橋梁技術発展に大きく貢献した首都高速の江戸橋ジャンクションに始まり、本州と九州を結ぶ関門大橋や明石海峡大橋をはじめとする多くの本州四国連絡橋、東日本大震災復興のシンボルである気仙沼湾横断橋、東京湾でも特に夜景が美しい東京ゲートブリッジ・レインボーブリッジ・横浜ベイブリッジ等、名だたる長大橋の設計・施工技術の実績があります

◆ 新幹線や鉄道上に架かる難易度の高い橋梁建設工事では、

長年にわたり培ってきた高い技術力と専門の職人集団の技能を活かした現場安全施工で高い評価と絶大なる信頼を頂いております

◆ 「特殊建築物の施工」および「沿岸構造物の設計・製作技術」は実績に基づいた

高い技術力が要求され、当社グループ以外で対応できる会社は限定されています

◆ 今後10年間で

4兆円規模と言われている高速道路のリニューアルプロジェクト、

事業規模5,000億円の大阪湾岸道路西伸部の長大橋梁を始め、

第二関門大橋(下関北九州道路)などの高難度のビッグプロジェクト、

更に、首都圏のターミナル駅の再開発事業、連続立体交差事業や高架化、

特殊建築物の施工および大規模沿岸構造物などが計画されており、

当社グループにとって更なる飛躍への絶好の事業環境と捉えております




会社概要

本店所在地	東京都中央区日本橋富沢町9番19号
代表者	代表取締役社長 青田 重利
創業	1908年9月
資本金	30億円
連結売上高	580億円 (2022/3期)



宮地エンジニアリンググループ株式会社

100%出資(連結)



宮地エンジニアリング株式会社 (MEC)

橋梁・鉄骨その他鋼構造物の設計、製作、架設、据付、維持補修、
プレストレストコンクリートの設計、製作並びに土木工事の施工、
工事管理、鉄骨・鉄塔・大空間構造物組立

51%出資(連結)



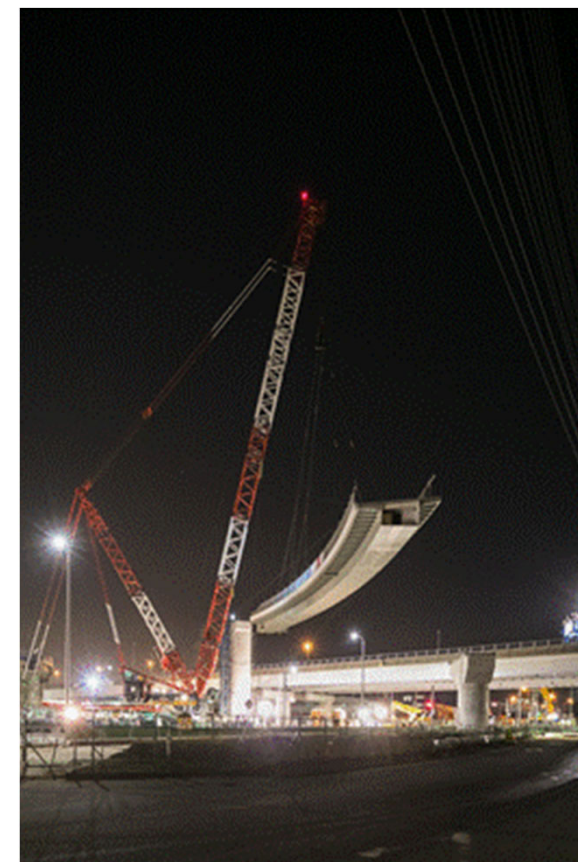
エム・エムブリッジ株式会社 (MMB)

橋梁、沿岸構造物等の設計、製造、据付、販売 および修理

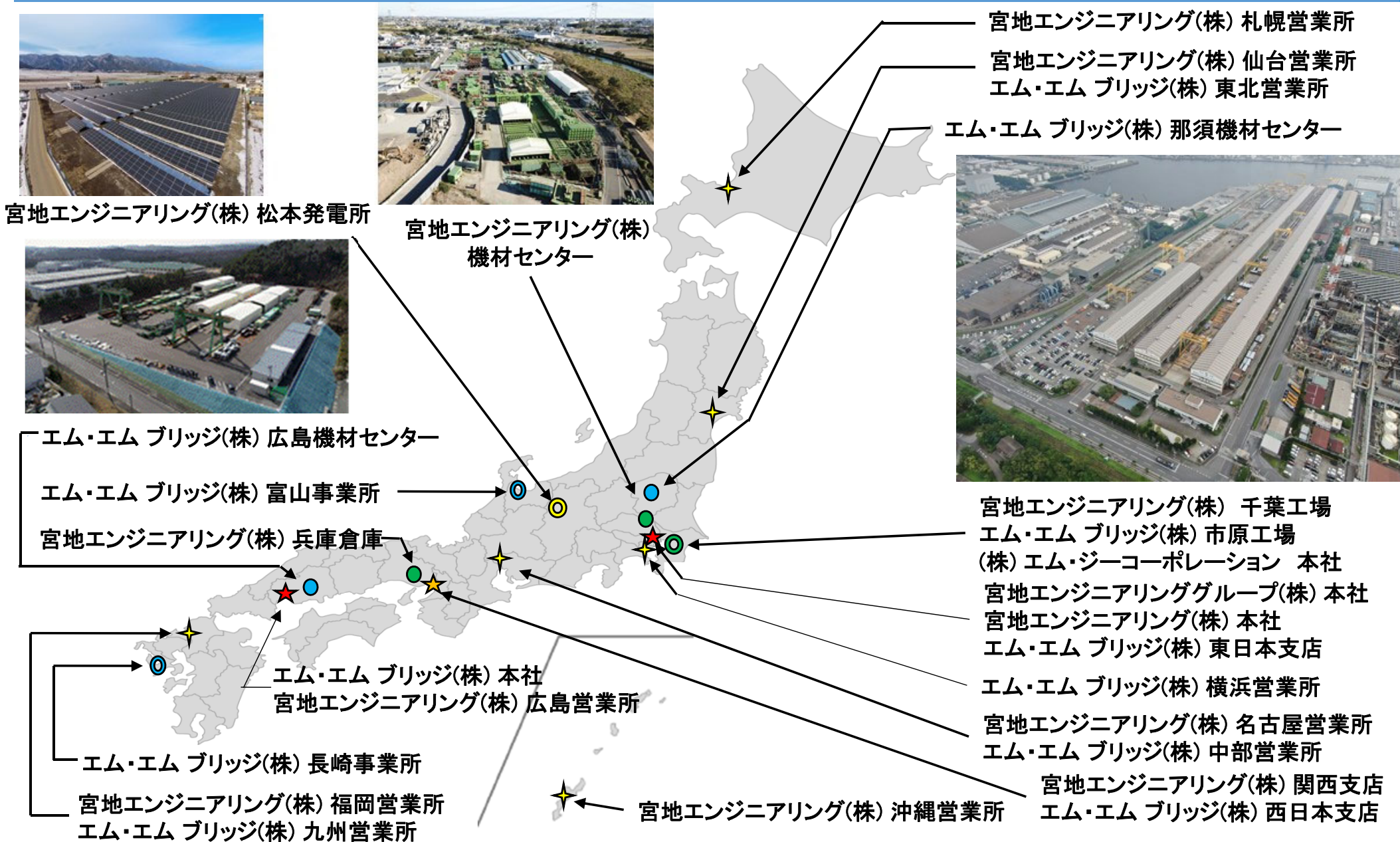
100%出資(非連結)

株式会社エム・ジー・コーポレーション

鋼構造物の設計・製作・架設、ボルト・溶接材料等の販売、
人材派遣業務、他



事業所および活動拠点



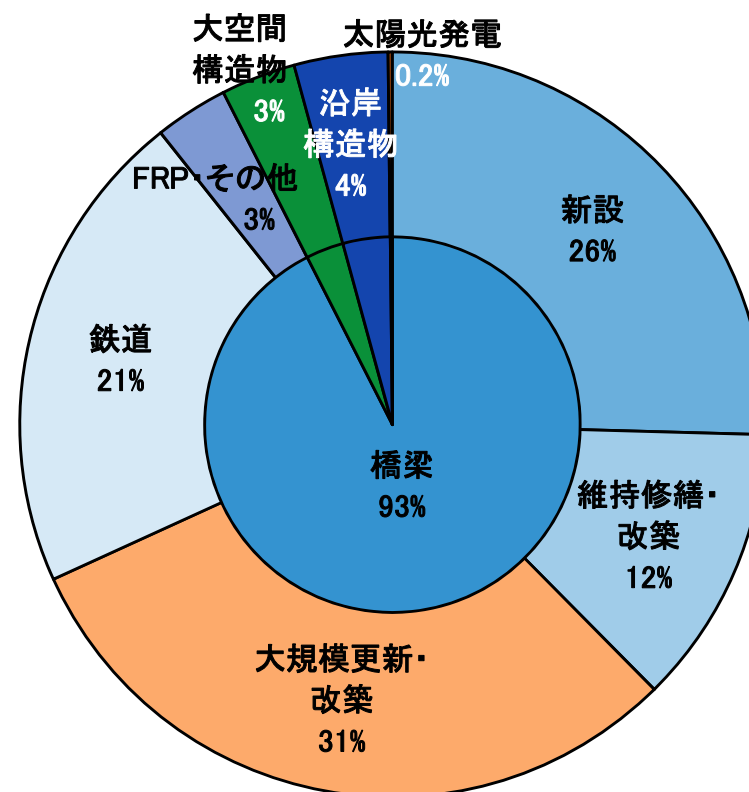
事業分野

業界でも有数の存在である橋梁の総合エンジニアリング企業

長大橋含む鋼製橋梁、タワー・ドームなど大空間構造物、沿岸構造物の設計・製作・建設計画・施工を一貫して手掛ける

橋梁	新設	業界内屈指の技術力 名だたる長大橋・道路橋建設実績を誇る
	維持修繕・改築	特殊橋梁の耐震補強工事や改築工事等、高難易度工事を選別受注
	大規模更新・改築	経営資源(技術・人材など)の質・量の観点から、受注できるのは当社の他に数社のみ
	鉄道	線路を跨ぐ高難度の橋梁施工技術を保有するのは当社の他に1社のみ
	FRP・その他	FRP(ガラス繊維強化プラスチック)を用いた検査路設置、橋梁に関する調査受託等
大空間構造物	高度な技術と施工管理ノウハウを活かしたタワー・ドームなどを多数建設	
沿岸構造物	海底トンネル・鋼製ケーソンなど、独自性ある領域に展開	
太陽光発電	旧工場跡地を活用した太陽光発電	

2022年3月期 事業別売上実績比率



主なプロジェクト実績(長大橋・道路橋)

■過去から脈々と続く高難度のプロジェクト経験により高い技術を蓄積

～1970年代



関門橋(1,068m)

逐次剛結の先端技術で架設

土木学会「田中賞」

1980～90年代



明石海峡大橋(3,991m)

当時、世界一の吊り橋

土木学会「田中賞」

2000年代以降



東京ゲートブリッジ(2,618m)

日本2位のトラス橋

土木学会「田中賞」



首都高速江戸橋JCT

首都高の最難関工事



港大橋

日本一のトラス橋

土木学会「田中賞」



多々羅大橋(1,480m)

日本一の斜張橋

土木学会「田中賞」



有明筑後川大橋

日本初の橋梁形式

土木学会「田中賞」



気仙沼湾横断橋(1,344m)

東日本大震災復興の象徴

主なプロジェクト実績(鉄道・大空間構造物・沿岸構造物)

- 高難度の施工技術を要する鉄道橋建設に数多く参画
- 大空間構造物においても、東京タワーをはじめ多くのプロジェクト経験を有しノウハウを蓄積

～1970年代

1980～90年代

2000年代以降

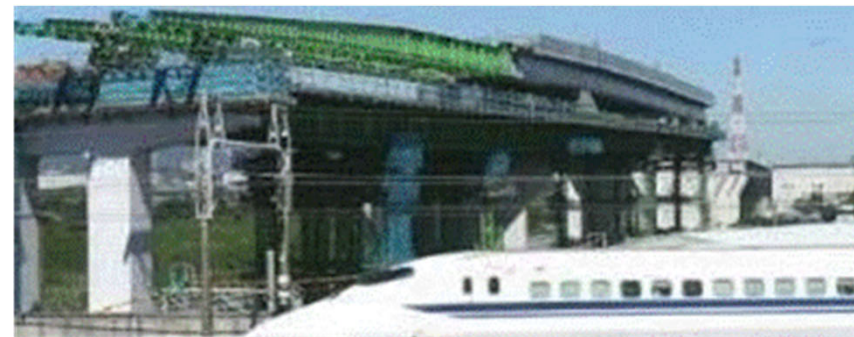
橋梁
(鉄道橋)



東海道新幹線江川橋梁



東海道新幹線箕輪架道橋



東海道新幹線50K900付近さがみ縦貫道路16号橋

大空間構造物



東京タワー(333m)



神戸ポートタワー(108m)



ナゴヤドーム



東京スカイツリー
(634m)



札幌ドーム



東京アクアティクスセンター

沿岸構造物



南本牧鋼製ケーソン



東京港海の森トンネル沈埋函

大規模案件・高難度案件への参画を可能とさせる業界屈指の総合力

設計・製作

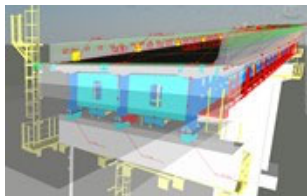
計画・架設

数多くのプロジェクト実績に裏打ちされた確固たる技術力

大規模プロジェクトに投入可能な人的リソース

経営資源を質・量共に
揃える当社グループ
だからこそ持ち得る強み

業界トップクラスの詳細設計力および技術開発力
ICT関連会社と協力して、Click3D、CIM-GIRDER、CIM-SLABの3種類のCIMシステム等を
開発



戦略・特殊機材の保有

業界屈指の手延べ機保有量
日本一のアーチ橋を架設した
ケーブルクレーン設備

機材を保有していること
だけでなく
扱える人材の多さと
技術の高さが当社の強み

高技能集団との連携

高度な技術力を有する
特殊職集団との連携は
事業成立に必要不可欠

例) ケーブルクレーン

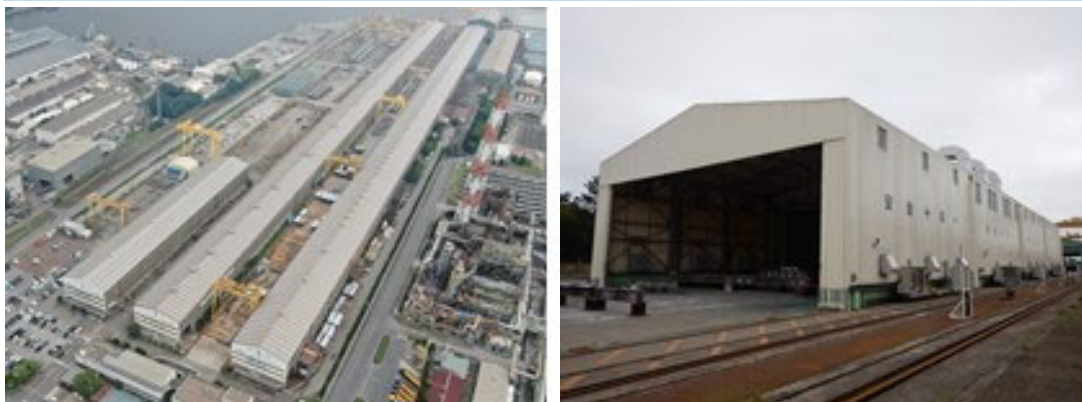


急峻な山間部等で通常クレーンの
侵入が困難な場所で使用



職人の外部ネットワークにより
高度な工事に対応するリソースを確保

自社工場保有が可能とさせる製作能力



海上長大橋の大ブロック製作対応も可能
業界有数の生産能力を保有

Ⅱ.2023年3月期第2四半期決算



2023年3月期第2四半期トピックス

- ◆ 「ウイズコロナ」への移行により国内景気の持ち直しは見られるものの、円安による材料費や燃料費高騰、海外における金融引締め、サプライチェーンの混乱、地政学リスクの高まりなどにより先行きに対する景気下押しリスクは強い
- ◆ 国内公共投資の予算は底堅く推移しているが、道路橋・鉄道橋等の橋梁事業の発注量はやや立ち遅れている

2023年3月期第2四半期トピックス

- ◆ 当社の受注高は、高速道路の大規模更新や大型案件を受注することで前年比8.3%増
- ◆ 売上高は、大規模更新工事が順調に進捗し前年比6.2%増
- ◆ 営業利益は、工場における生産性向上、現場工事の採算性向上、業務効率化等により、
原材料費・人件費・資機材費等の想定外の高騰による損益の悪化を補い、
更に期首時点では下半期に想定していた改善を前倒し出来たことで、前年比15.6%増
- ◆ 2022年5月に発表した中期経営計画については、高速道路大規模更新および改築工事
への取組を中心に順調な立ち上がり

2023年3月期第2四半期決算サマリー

手持ち工事の順調な進捗、生産性向上・効率化による改善および下期に予定していた改善の前倒しにより期首時点と比較して上期の利益率は大幅に改善

(百万円)

	21/3期2Q	22/3期2Q		23/3期2Q	
	実績	実績	前年同期比	実績	前年同期比
売上高	28,017	26,318	▲6.1%	27,951	6.2%
営業利益	3,215	2,755	▲14.3%	3,184	15.6%
経常利益	3,295	2,852	▲13.4%	3,304	15.9%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	2,109	1,539	▲27.0%	1,911	24.1%
受注高	47,910	28,085	▲41.4%	30,425	8.3%
受注残高	92,780	90,083	▲2.9%	96,760	7.4%

当社グループで施工中の大規模更新・改築工事



東品川棧橋・鮫洲埋立部更新工事
首都高速道路株式会社

佐世保高架橋拡幅工事 西日本高速道路株式会社



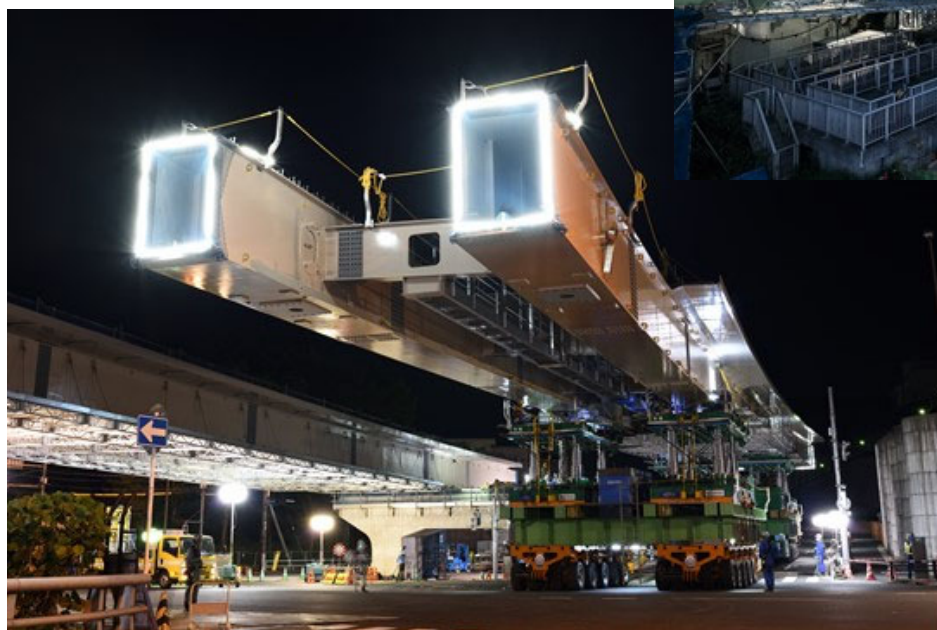
吹田JCT～中国池田IC間橋梁更新工事
西日本高速道路株式会社

当社グループで施工中の新設橋梁・鉄道橋工事

海老江工区鋼桁および鋼製橋脚工事
阪神高速道路株式会社



館高架橋上部工事
国土交通省関東地方整備局



笠倉壁田橋
長野県



セグメント別実績

宮地エンジニアリングは下期に予定していた改善の前倒しにより前年同期比増益
 エム・エムブリッジは工事は順調に進捗したものの前年度の様に大幅改善が無いいため前年同期比減益

(百万円)

	21/3期2Q	22/3期2Q		23/3期2Q	
	実績	実績	前年同期比	実績	前年同期比
売上高	28,017	26,318	▲6.1%	27,951	6.2%
宮地エンジニアリング	19,570	16,011	▲18.2%	16,039	0.2%
エム・エムブリッジ	8,534	10,493	23.0%	11,896	13.4%
その他	3	2	▲37.3%	1	▲12.9%
営業利益	3,215	2,755	▲14.3%	3,184	15.6%
宮地エンジニアリング	2,588	1,620	▲37.4%	2,242	38.5%
エム・エムブリッジ	656	1,148	74.9%	932	▲18.8%
その他	538	687	27.5%	1,022	48.8%
受注高	47,910	28,085	▲41.4%	30,425	8.3%
宮地エンジニアリング	26,497	14,399	▲45.7%	17,450	21.2%
エム・エムブリッジ	21,409	13,684	▲36.1%	12,973	▲5.2%
その他	3	2	▲37.3%	1	▲12.9%
受注残高	92,780	90,083	▲2.9%	96,760	7.4%
宮地エンジニアリング	52,806	45,693	▲13.5%	54,408	19.1%
エム・エムブリッジ	39,969	44,398	11.1%	42,448	▲4.4%
その他	—	—	—	—	—

貸借対照表、キャッシュ・フロー

利益剰余金増により自己資本比率は22/3末の54.0%から54.8%に上昇

主な貸借対照表の項目

(百万円)

	21/9末	22/3末	22/9末
資産合計	60,805	61,815	62,971
流動資産	41,057	42,056	43,296
固定資産	19,747	19,759	19,674
有形固定資産	13,017	12,756	12,564
無形固定資産	306	336	331
投資その他の資産	6,423	6,666	6,778
負債合計	24,421	22,724	22,772
流動負債	19,714	18,150	18,407
固定負債	4,707	4,574	4,364
純資産合計	36,383	39,091	40,199
株主資本	26,231	28,097	29,055
その他の包括利益累計額	5,059	5,282	5,444
非支配株主持分	5,092	5,710	5,698

四半期純利益増加により営業CFはプラスを維持、借入金返済および配当に充当

主なキャッシュ・フロー計算書の項目

(百万円)

	21/3期2Q	22/3期2Q	23/3期2Q
営業活動によるキャッシュ・フロー	971	10,608	3,239
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲1,482	▲697	▲216
財務活動によるキャッシュ・フロー	797	▲727	▲1,583
現金および現金同等物の増減額(▲は減少)	287	9,182	1,439
現金および現金同等物の期末残高	12,038	17,699	17,418

Ⅲ.2023年3月期業績予想



2023年3月期業績予想

今年度は原材料・資機材費等の大幅な高騰による悪化リスクがあるが、生産性向上・効率化等の施策により事業計画を維持する見込み

(百万円)

	21/3期	22/3期		23/3期	
	実績	実績	前年比	業績予想	前年比
売上高	55,268	58,002	4.9%	65,000	12.1%
営業利益	5,501	5,810	5.6%	5,500	▲5.3%
経常利益	5,547	5,992	8.0%	5,500	▲8.2%
親会社株主に帰属 する当期純利益	3,808	3,406	▲10.6%	3,000	▲11.9%
自己資本利益率 (ROE)	13.5%	10.7%	—	9.0%	—
受注高	70,695	63,974	▲9.5%	70,000	9.4%
受注残高	88,315	94,286	6.8%	99,286	5.3%

IV.中期経営計画の進捗



目指す姿と事業戦略

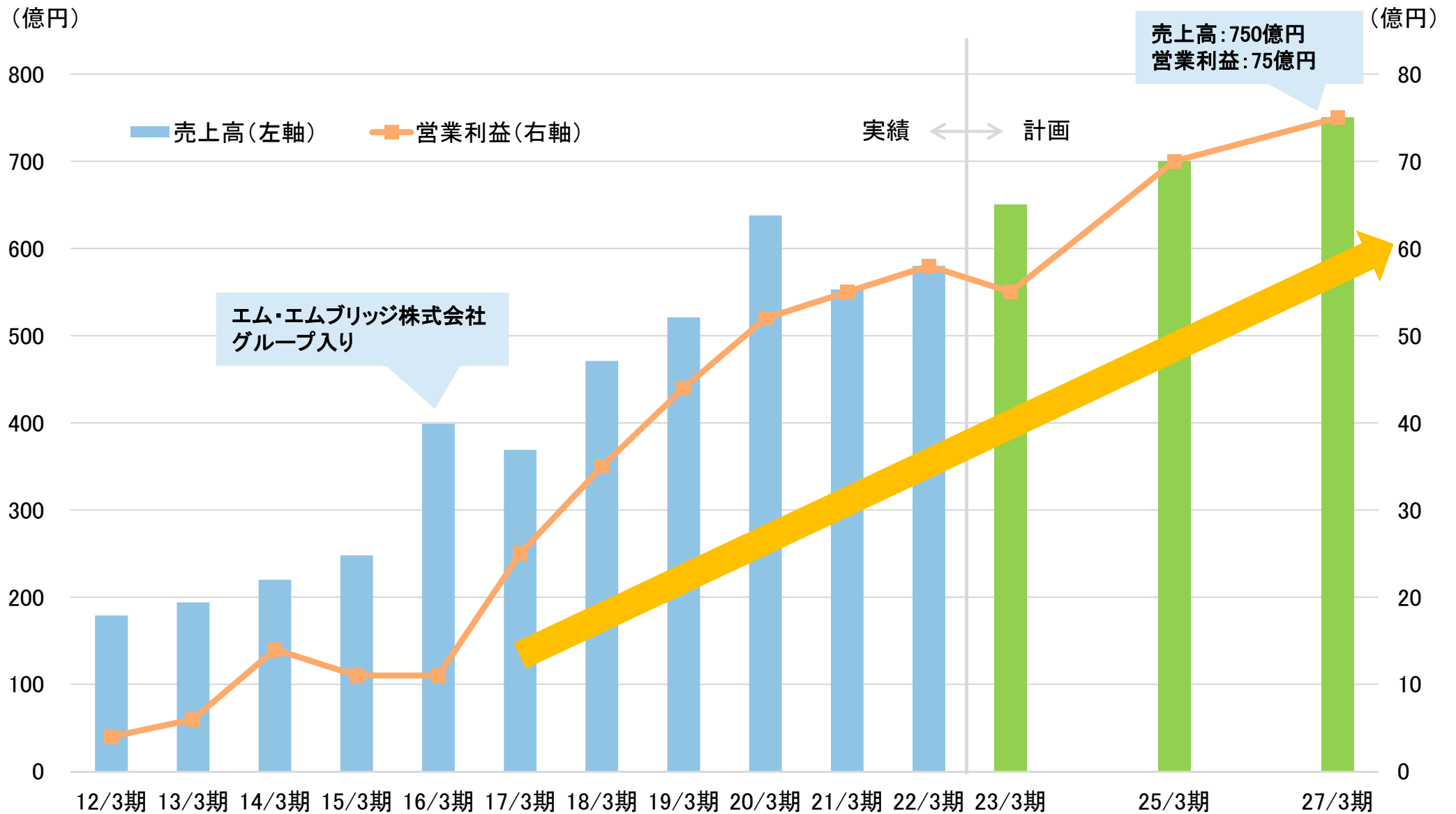
2026年に 目指す姿

ファブ(工場製作)とエンジ(現場施工)を両輪とし、豊富な実績に基づく高度な技量を備えた日本を代表する
 鷺集団を中心とした協力会社を傘下に持つ業界屈指の総合エンジニアリング会社として、グループの連携を
 強化すると共に、経営資源の質・量の充実を図り、競争力を強化し、豊かな社会の構築に貢献する大規模工
 事への参画により売上と利益を更に拡大することで、持続的成長による企業価値の向上を図る

主要戦略

- 1) 新設橋梁ビッグプロジェクトへの参画
- 2) 高速道路大規模更新工事の取り込み拡大
- 3) 民間の高難度工事への対応
- 4) 技術開発の強化
- 5) 事業拡大・効率化に向けた設備投資
- 6) アライアンス強化
- 7) 開発商品の拡販
- 8) ESGへの取り組み

売上高・営業利益の実績および計画

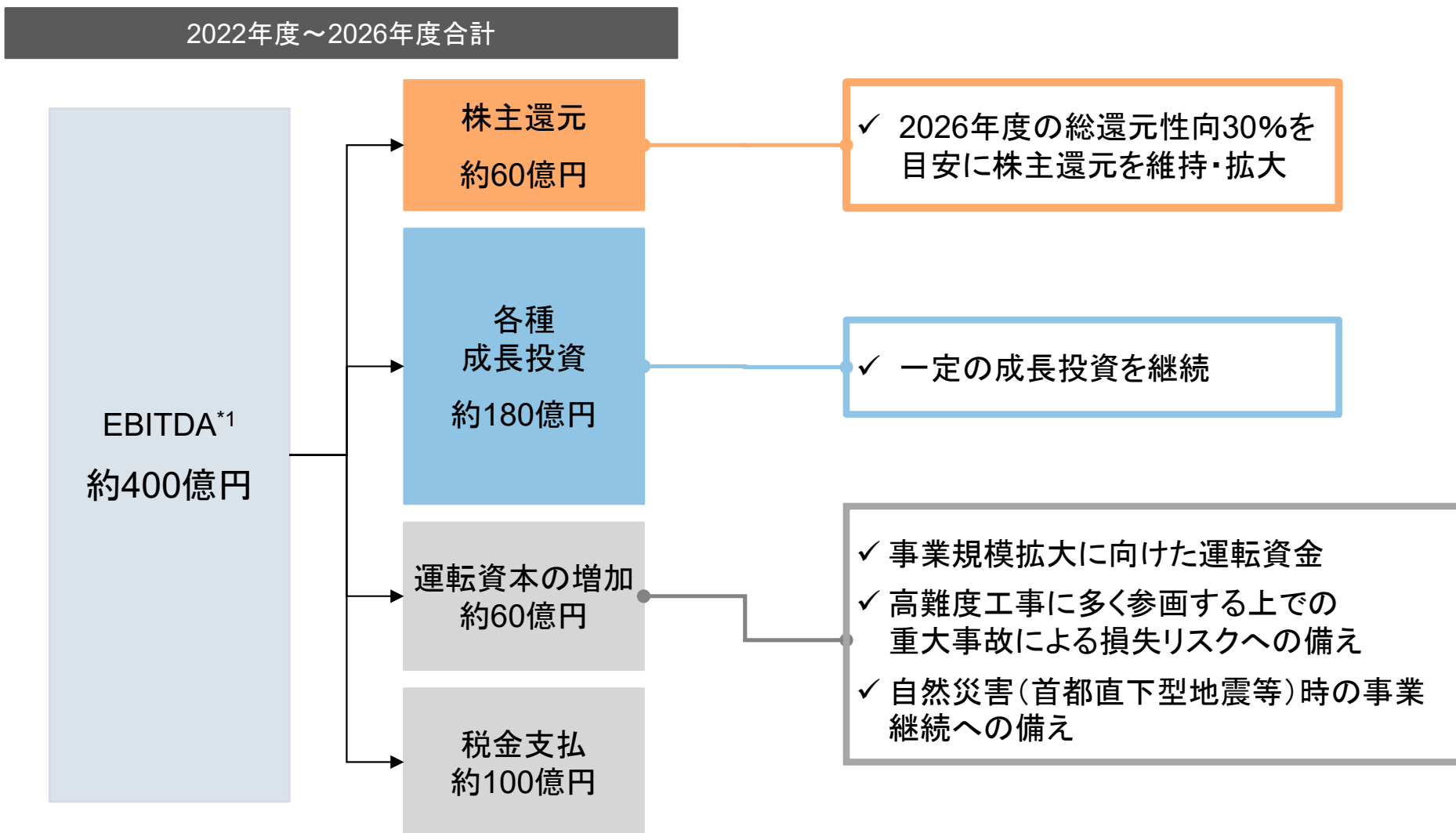


主要戦略の状況

主要戦略	取組状況	
1)新設橋梁ビッグプロジェクトへの参画	大阪湾岸道路西伸部新設橋梁ビッグプロジェクトへの参画に向けて、製作・架設における技術的な勉強会を実施中	<p style="text-align: center;"> 質・量共に 経営資源を揃える 当社の強みを 最大限に発揮出来る プロジェクト </p>
2)高速道路大規模更新工事の取り込み拡大	技術提案・交渉方式の複数の大規模更新・改築工事において、優先交渉権を獲得して設計対応中。更に複数の案件にも参画するべく技術提案検討中	
3)民間の高難度工事への対応	高い技術力が評価されている民間向け高難度工事についても、具体的案件について鋭意技術提案を検討中	
4)技術開発の強化	ICT、DX関連会社や各種メーカーとの共同開発を進め、業務改善を推進中	
5)事業拡大・効率化に向けた設備投資	新型コロナ、物価高騰の影響はあるものの、生産設備の投資は計画的に進めている	
6)アライアンス強化	優先交渉権を獲得したNEXCOの大規模更新工事の他、複数の大型案件でゼネコンとの異工種JVを組成して応札対応中	
7)開発商品の拡販	NEXCOの大規模案件の技術提案において、FRP合成床版が採用された。MS-Rシステム(床版撤去工法)も採用実績獲得	
8)ESGへの取り組み	事業会社2社が各々で活動を行っているが、グループ全体としての活動展開を検討中	

資本戦略

- 一定の資本拡充および成長投資も確保の上で、株主還元を維持・拡大を図る



*1 Earnings Before Interest Taxes Depreciation and Amortization

投資戦略

		5年間の投資見込み	取組状況
生産能力の効率化・適正化	ヤードの整備・スペース効率化	5億円	工場外の敷地を借地して製作部材を保管していたが、整備・効率化により借地面積を1/3に縮小
	塗装工場再構築	20億円	塗装作業の効率化により、全体工程のボトルネックが解消し、塗装作業効率30%UP
	工場設備の更新・補修・建屋耐震補強	70億円	大型クレーン等設備更新実施
	新事務所棟建設	25億円	新型コロナおよび物価高騰の影響を踏まえ延期中
	機材センターの改修	10億円	災害発生時の資材発送拠点として活用するべく、2025年完成に向けて耐震性向上工事に着手
	機材センターの設備更新	20億円	戦略機材を増強、更新中
事業ポートフォリオの拡大・適正化	新規事業開発	30～50億円規模を想定	M&A情報を常時入手し、検討している 技術開発はICT、DX関連会社および各種メーカーとの共同開発を進め、業務改善を推進中
総合エンジニアリングの機能強化	M&A		
	技術開発		
成長投資合計		180～200億円規模を想定	

配当政策

成長戦略の実行により、当期純利益を伸長

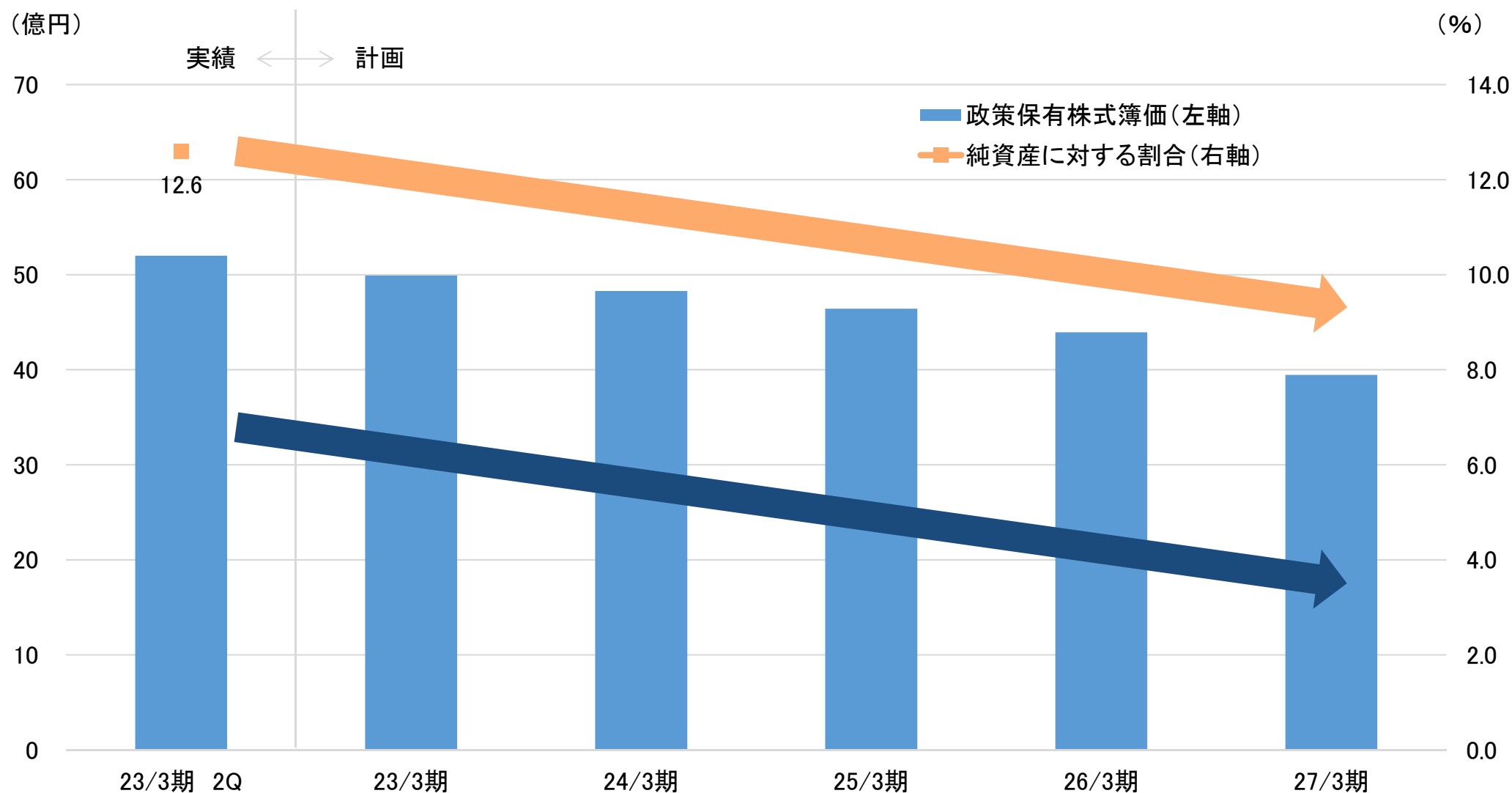
(百万円)

	22/3期 実績	23/3期	25/3期	27/3期
売上高	58,002	65,000	70,000	75,000
営業利益	5,810	5,500	7,000	7,500
経常利益	5,992	5,500	7,000	7,500
親会社株主に帰属する当期純利益	3,406	3,000	3,800	4,000
1株当たり配当額(円)	140	140	(170)	(180)

配当の継続的な維持・拡大を図る

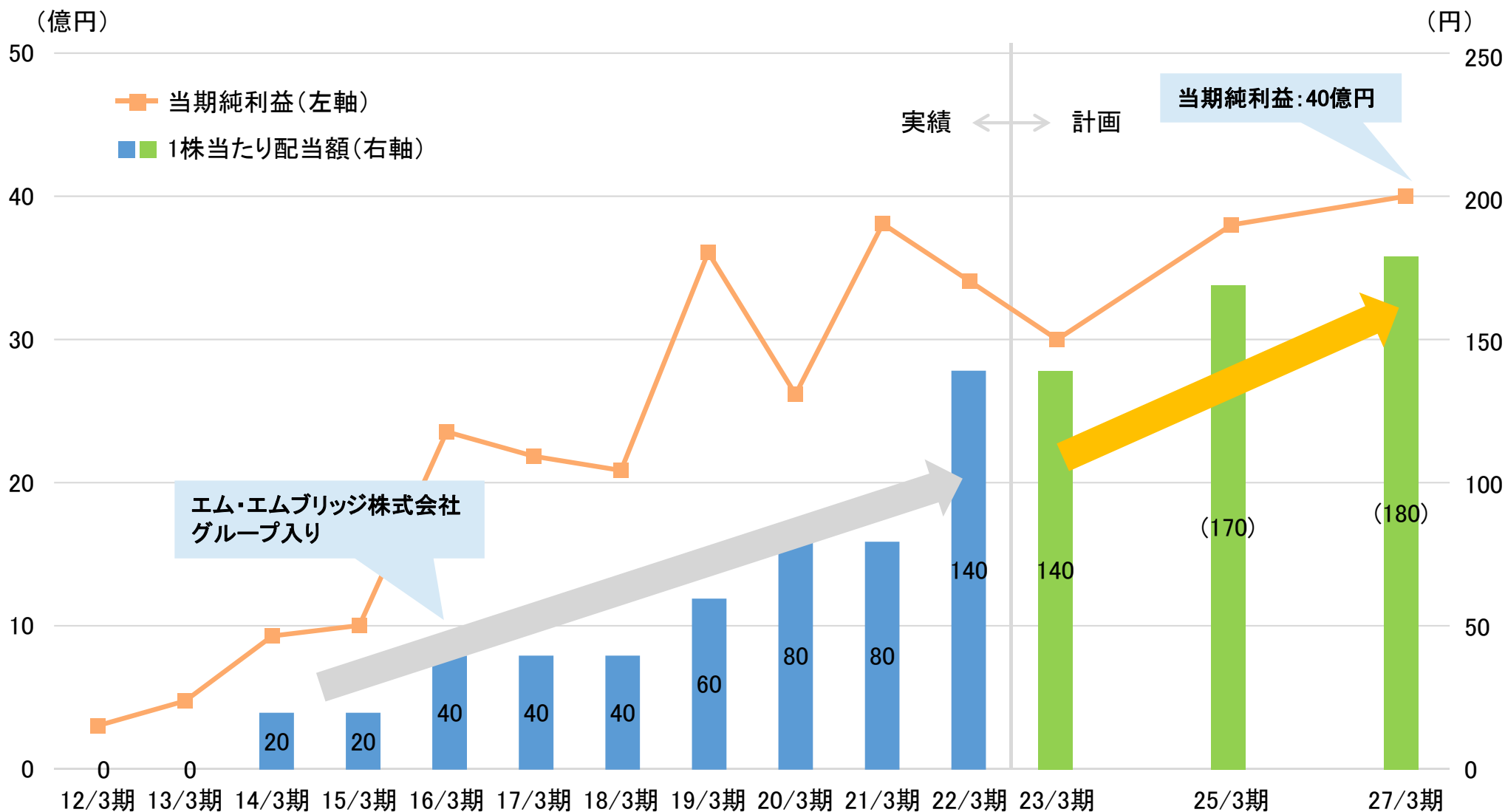
政策保有株式の縮減方針

中計期間中に政策保有株式簿価の純資産に対する割合を10%以下まで縮減へ



当期純利益と配当金の実績および計画

成長戦略の実行および継続的な配当の維持・拡大へ



ESG・SDGsへの取り組み(1)

グループとしてのSDGsへの取り組み

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



宮地エンジニアリング株式会社



エム・エムブリッジ株式会社

今まで事業会社単位で活動を行っていたが、
グループとしてのマテリアリティ・目標等を明確にするべく
事業会社を含めたグループとしての委員会設立準備中

ESG・SDGsへの取り組み(2)

人材育成・ダイバーシティ推進

中期経営計画の取組み

✓ 女性活躍の推進

- 溶接工・設計職などでの女性社員活躍を積極支援
- ライン部長など、女性社員の幹部積極登用(「えるぼし認定」取得)



宮地エンジニアリング株式会社が、厚生労働大臣より「女性の活躍に関する取組の実施状況が優良な企業」として「えるぼし認定」、エム・エムブリッジ株式会社が、広島市より「広島市男女共同参画表彰事業者」として認定を受ける

宮地エンジニアリング株式会社
「えるぼし認定」



エム・エムブリッジ株式会社
「広島市男女共同参画
表彰事業者」



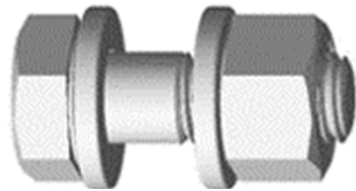
広島市男女共同参画
表彰事業者

V.技術開発

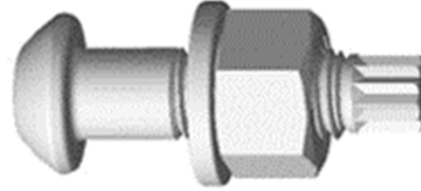


気候変動対策として環境へ配慮した技術開発を進め、特許取得

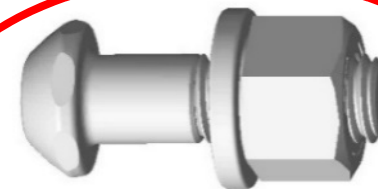
環境配慮型高力ボルト(CNB)の開発



高力六角ボルト



トルシア形高力ボルト

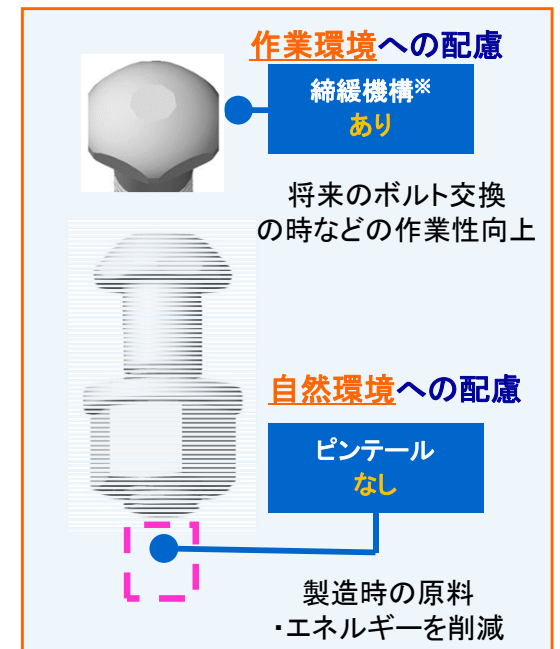
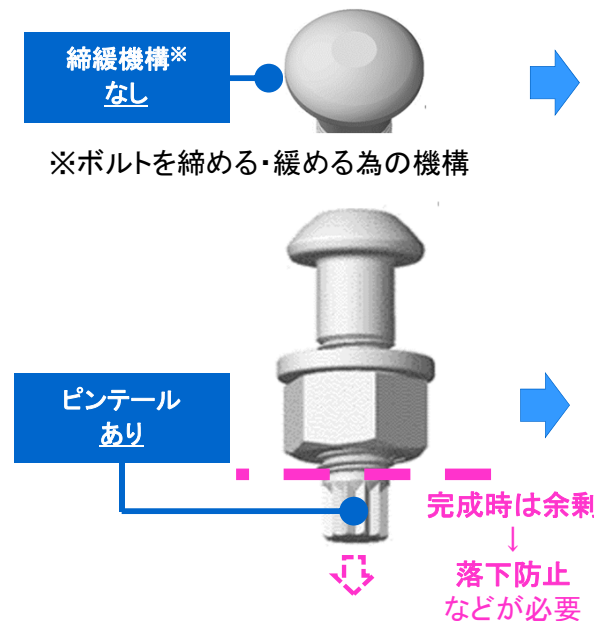


環境配慮型高力ボルト

- ① 高力六角ボルトより個別の締付管理が不要となるトルシア型高力ボルトの方が利便性が高い
- ② 但し、トルシア型高力ボルトの場合、ピンテールの回収、破断部研磨処理が必要となり、環境に悪影響を与える鉄粉の飛散防止や清掃作業が必要
- ③ 更に、ボルト頭部に締緩機能がない



これらの問題を解決するボルトとして
環境配慮型高力ボルトを開発



港内および養殖水域等を波から守る浮消波堤技術

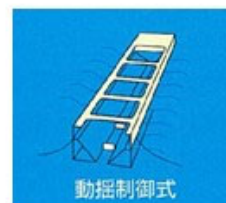
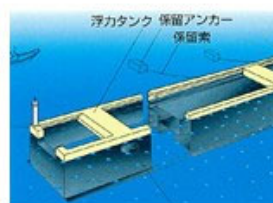
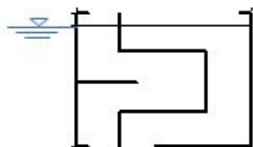
浮消波堤の特徴

- ① 浮消波堤は、港湾内の波の静穏化を目的として開発した製品です
- ② 浮体であるため、埋立等による環境への影響が最小となる上に、潮流や海流を妨げないため、環境にやさしい鋼構造物です
- ③ 浮漁礁として海洋生物の生育環境の保全にも効果を発揮しており、豊かな海洋環境を守り再生する構造物として、さらなる活用が期待されています。



<内部水流振動型浮消波堤 / 適用周期5.0~9.0秒 (内海は6.0秒)>

・内部の水流経路により振動流の固有周期を調節し反射特性を向上させる。



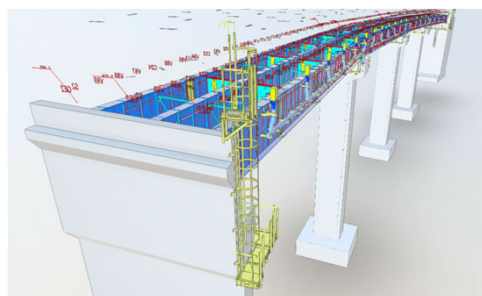
<動揺制御型浮消波堤 / 適用周期5.0~5.3秒>

・浮体による水の動きを利用して浮体動揺を制御する事で波エネルギーを相殺。

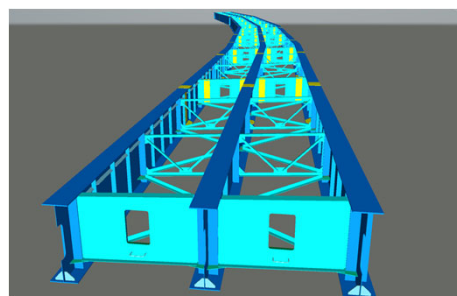


ICT、DX関連会社とCIMシステムを共同開発

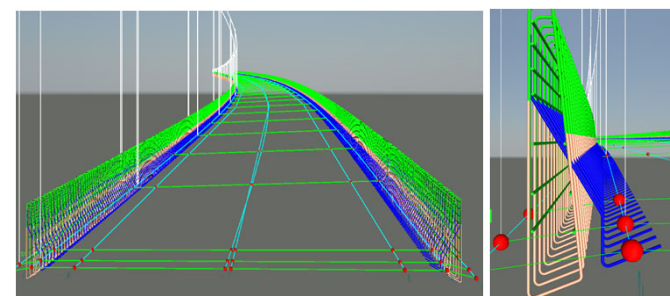
- ① 2次元感覚で3次元モデルの作成が可能なシステムを目指し、10年前より共同開発着手
- ② 3段階で順調に開発を進めてきて、現在はCIM-SLAB / STEP2の最終開発段階



①Click3Dで作成した3次元モデル



②CIM-GIRDERで作成したCIMモデル

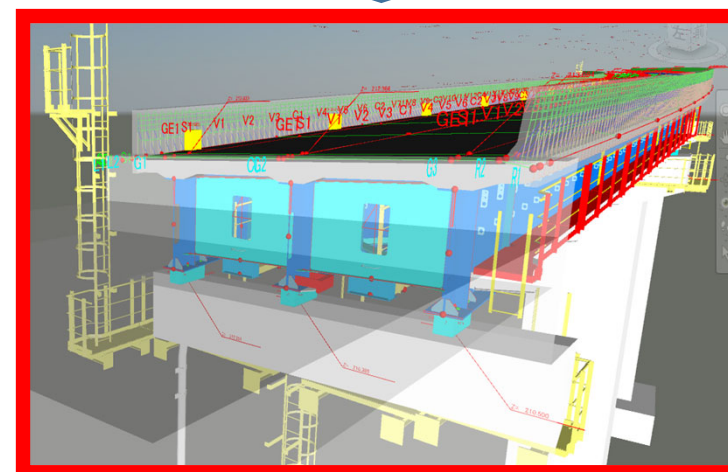


③CIM-SLABで作成した壁高欄CIMモデル



CIMシステム3段階の開発構想

Click3D	2014年完成 汎用型CIMシステム 2015年特許取得
CIM-GIRDER	2020年完成 桁橋専用CIMシステム 2020年NETIS登録済
CIM-SLAB	床版・橋面工専用CIMシステム STEP1: 壁高欄CIM(2019年完成) STEP2: 床版CIM(現在開発中)



①～③を一体化した完成系CIMモデル

ICT、DX関連会社と「鋼橋出来形管理システム」を共同開発

「鋼橋出来形管理システム」の開発

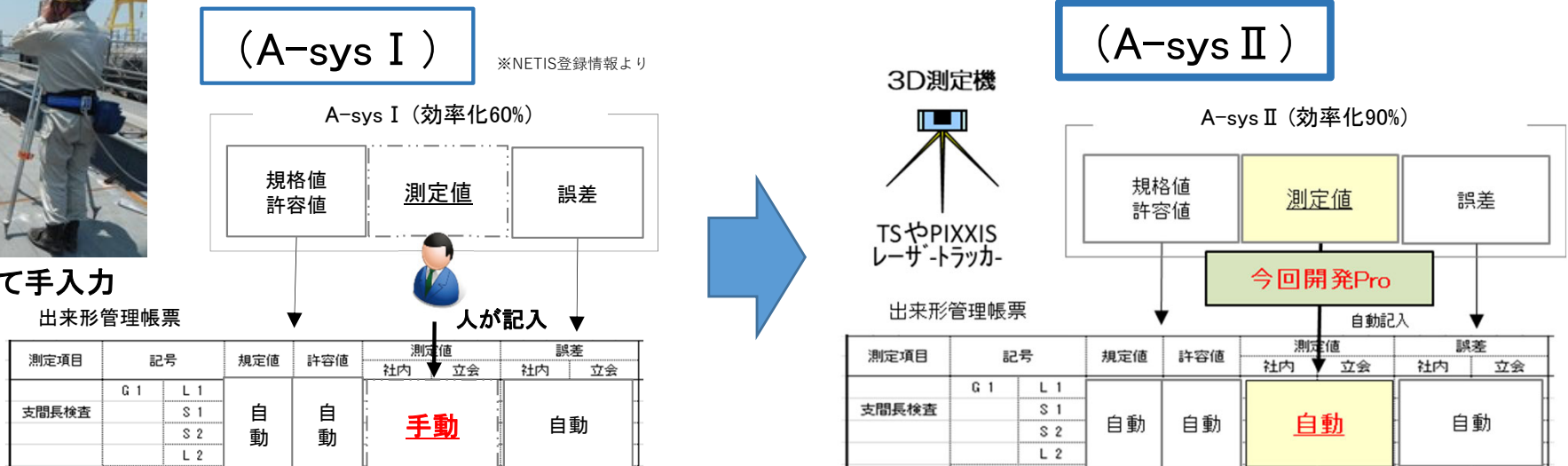
- ① 工場計測記録の自動化システム(A-sys I)を2012年度開発
- ② 2022年度、測定値の入力自動化を目指した(A-sys II)を開発
 ※ (A-sys II)による計測関連作業時間の削減率=効率化は
(A-sys I)による効率化60%+30%=90%
- ③ 現場計測作業への本システム適用拡大に向け、開発継続中



計測結果を自動入力



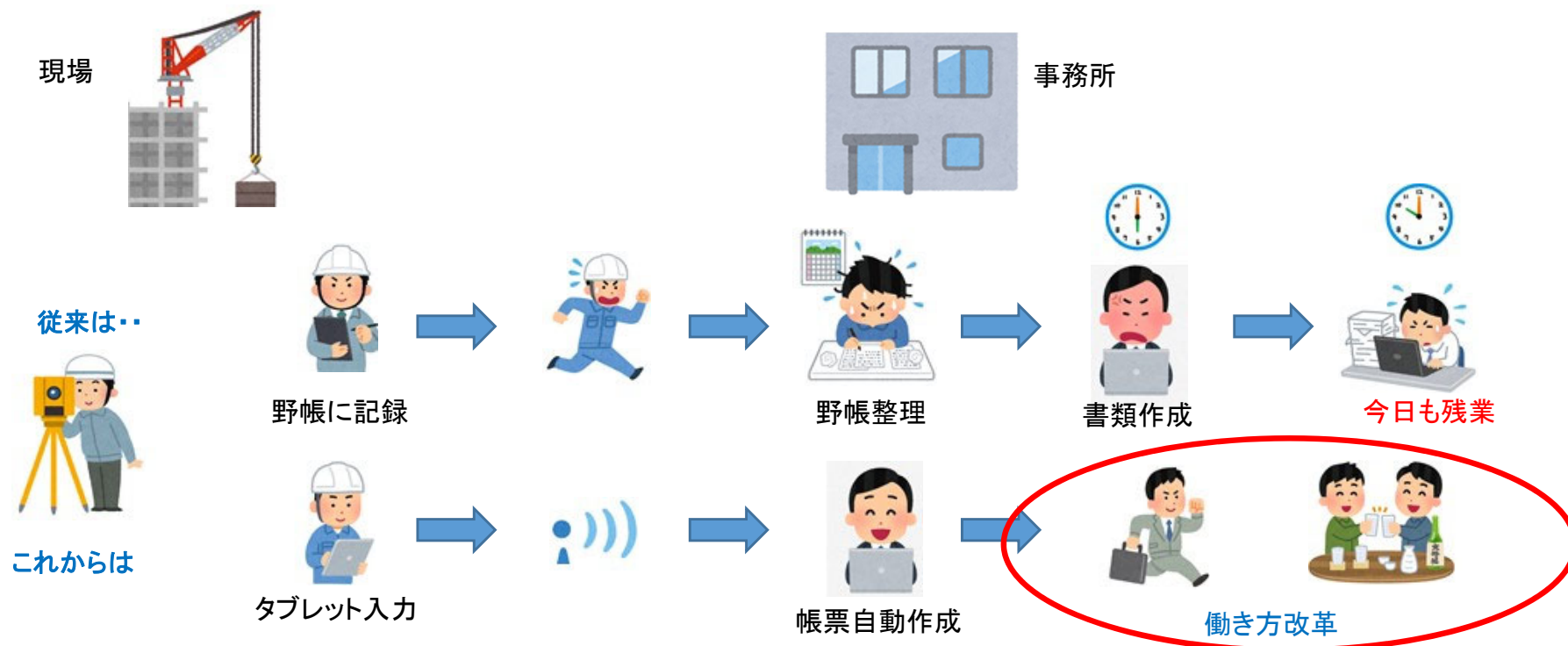
計測結果は全て手入力



ICT、DX関連会社の協力を得て現場管理業務のIT化による働き方改革を推進

工事情報共有システムの機能を拡張して帳票を自動作成

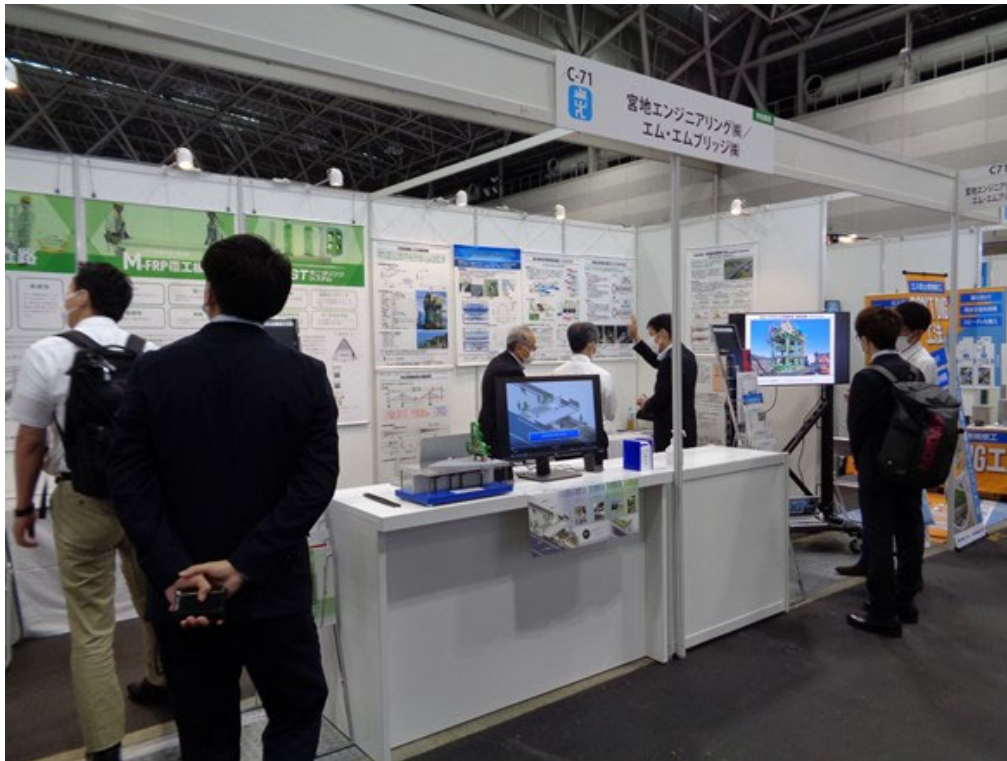
- ① 従来は現場で計測した膨大な量のデータを手入力で管理
- ② 工事情報共有システムの機能を拡張+現場に自動端末を導入する事により、現場の労力を増やす事なく帳票類への入力自動化を実現



開発技術のPRの取り組み(1)

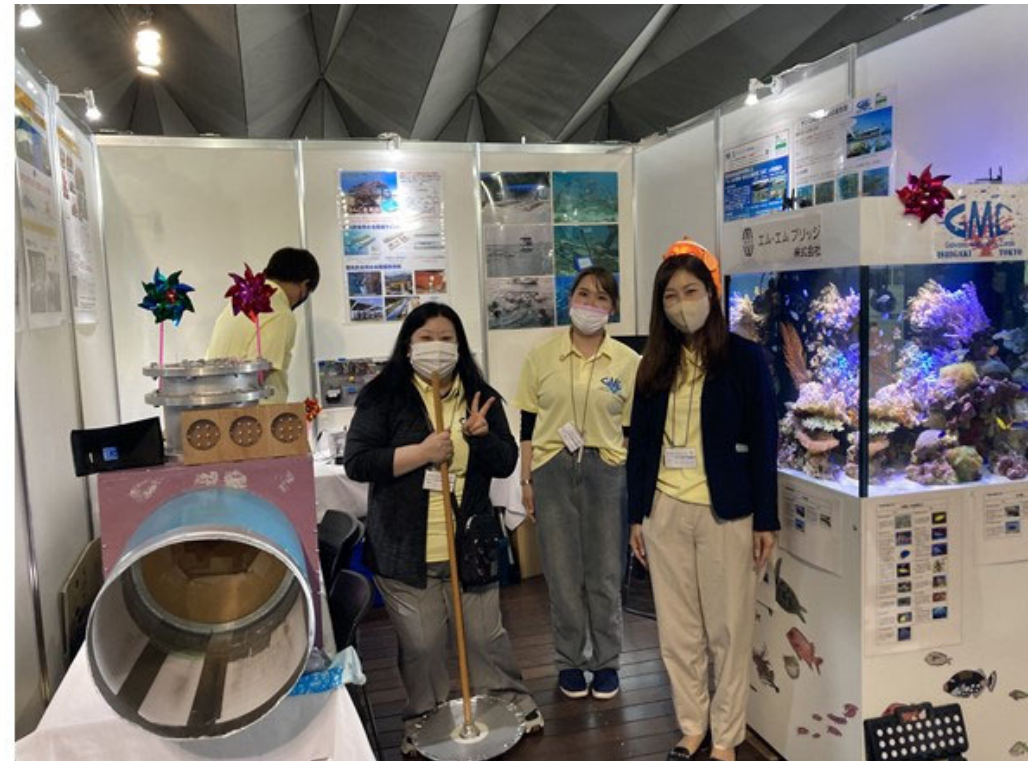
各展示会に積極的に出展

2022/10/4・5 建設技術フェア2022in中部



- ◆ 建設関連産業の振興、技術開発の推進および商取引の拡大を目的とした産・学・官の技術交流の場である「建設技術フェア」に出展
- ◆ MEGとして、床版取替技術(M-SR等)や橋梁の特殊診断・点検技術(起振機等)、FRP製品(検査路等)の紹介を行いました

2022/10/15・16 東京湾大感謝祭2022



- ◆ SDGsの達成に向け、海を起点にライフスタイルの転換を考え、行動するきっかけを提供する場である「東京湾大感謝祭2022」に出展
- ◆ 沿岸構造物を手掛けるMMBが、サンゴ礁再生事業の紹介や、波力発電の仕組みがわかる体験模型の展示等を行いました

開発技術のPRの取り組み(2)

千葉工場がテレビで取り上げられました！！

2022/10 NHK放送「有吉のお金発見 突撃カネオくん！」

全長1kmにおよぶ巨大橋梁製作工場として
宮地エンジニアリング(株)千葉工場が紹介されました



東京ゲートブリッジ架設風景



明石海峡大橋架設風景



広島空港大橋架設風景

◆ 当社グループの施工割合

- 東京ゲートブリッジ(2012年開通) 約40% (全4社中)
- 明石海峡大橋(1998年開通) 約15% (全20社中)
- 広島空港大橋(2011年開通) 約50% (全3社中)

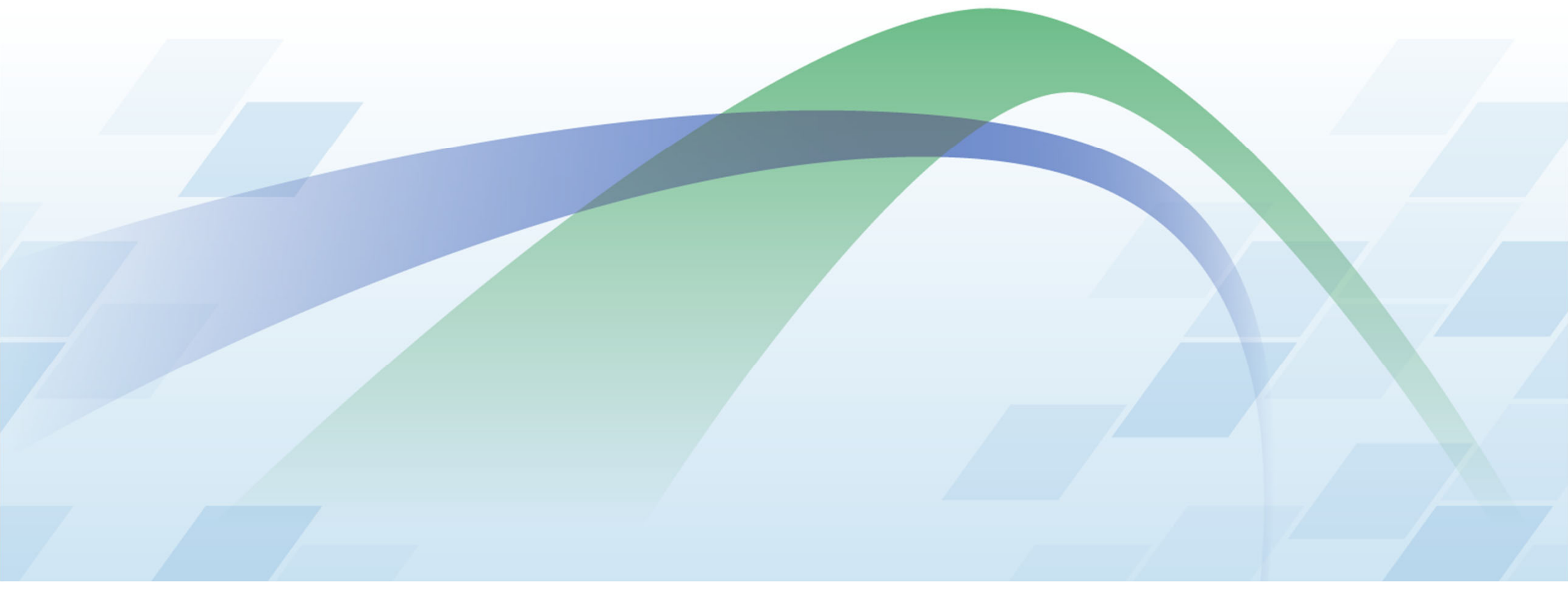
◆ 将来見通しに関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

◆ IRに関するお問合せ先

宮地エンジニアリンググループ株式会社
グループ企画管理本部 瀬戸井、遠藤
〒103-0006 東京都中央区日本橋富沢町9番19号
TEL 03-5649-0111
FAX 03-5649-6811
E-mail setoi.yutaka@miyaji-eng.co.jp、endoh.akinobu@miyaji-eng.co.jp

VI. Appendix



中期経営計画-定量目標

(百万円)

	22/3期 実績	23/3期	25/3期	27/3期
売上高	58,002	65,000	70,000	75,000
営業利益	5,810	5,500	7,000	7,500
経常利益	5,992	5,500	7,000	7,500
親会社株主に帰属する当期純利益	3,406	3,000	3,800	4,000
自己資本比率	54.0%		55%以上	
自己資本利益率(ROE)	10.7%		10%以上	
総資本利益率(ROA)	9.8%		10%以上	

中期経営計画-生産性向上と働き方改革等への投資



		取り組み内容		5年間の投資見込み	投資効果
千葉工場の改革	ヤードの整備・ スペース効率化	 部材の 保管場所整備	 部材の 段積み保管	5億円	塗装能力と 品質の向上 固定費の改善
	塗装工場再構築	 塗装用移動 ハウス新設	設備増設含めた 塗装ラインを再構築	20億円	
	工場設備の更新・ 補修・建屋耐震補強	生産設備の更新・修繕・耐震補強		70億円	大規模案件対応に 向けた生産設備投資
	新事務所棟建設	事務所棟の新設		25億円	固定費の改善 社員の労働環境改善
機材センターの改修		老朽化した機材センターの改修		10億円	高難度工事施工 技術の維持・向上
機材センター設備更新		戦略・特殊機材など機械装置の更新・修繕		20億円	
DX・開発・環境投資		設計・製作・現場のDX化・技術開発・新製品開発・ 環境負荷低減への投資		20億円	業務効率化 事業拡大・環境保全

中期経営計画-ESG・SDGsへの取り組み

- 自然災害に迅速かつ安全に対応、気候変動政策、人材育成・ダイバーシティ推進、ガバナンス向上も会社の持続的成長に不可欠な要素として取り組む

自然災害に鋼構造スペシャリスト集団として対応

- ✓ 阪神淡路大震災・六甲道駅(1995年)
 - 2年掛かるとされた復旧作業を74日で再建
- ✓ 東日本大震災・東北新幹線(2011年)
 - 新幹線高架橋の横ずれ3か月で復旧
- ✓ 熊本城飯田丸五階櫓倒壊防止装備(2016年)
 - アーム式支保工で倒壊防止



熊本城飯田丸倒壊防止設備



気候変動政策

- ✓ 松本工場跡地の太陽光発電所
 - CO2削減量 469,858kg/年
- ✓ 沿岸構造物技術を用いたサンゴ増殖
 - 東京大学らと連携し電気を用いた鋼材腐食技術を開発

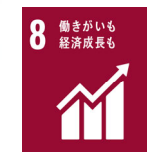


人材育成・ダイバーシティ推進

- ✓ 女性活躍の推進
 - 溶接工・設計職などでの女性社員活躍を積極支援
 - ライン部長など、女性社員の幹部積極登用(「えるぼし認定」取得をめざす)
- ✓ 社員の働きやすい職場づくり
 - 介護等による一時退職制度と、職場復帰を促す支援制度を運用(退職前に準ずる職能評価で復職可能)
- ✓ 社員の能力開発支援
 - 博士号、修士の習得奨励のための大学院留学制度



女性溶接工の活躍



コーポレートガバナンス体制の整備

- ✓ 2021年6月 監査役会設置会社から監査等委員会設置会社へ移行
- ✓ 2021年6月 指名・報酬委員会を設置
- ✓ 2022年6月以降、取締役を7名に減らし、過半数の4人を社外取締役とする体制へ移行

株主・投資家との対話強化

- ✓ 2021年4月 IR室を設置
- ✓ 決算発表会を含め、株主・投資家との対話機会を拡充
- ✓ 投資家との個別対話機会を拡充

当社が建設に参加した巨大構造物 I

本州四国連絡橋

長大橋建設



橋石島橋(本州四国連絡橋) 昭和63年(1988年)香川県



明石海峡大橋(本州四国連絡橋) 平成10年(1998年)兵庫県



太陽門橋(本州四国連絡橋) 昭和60年(1985年)兵庫県～徳島県



下津井瀬戸大橋(本州四国連絡橋) 昭和63年(1988年)岡山県～香川県



北備讃大橋・南備讃大橋(本州四国連絡橋) 昭和63年(1988年)香川県



与島橋(本州四国連絡橋) 昭和63年(1988年)香川県



多々羅大橋(本州四国連絡橋) 平成11年(1999年)広島県～愛媛県



伯方・大島大橋(本州四国連絡橋) 昭和63年(1988年)愛媛県



来島海峡大橋(本州四国連絡橋) 平成11年(1999年)愛媛県

因島大橋、南備瀬戸大橋のケーブル、轟の州高架橋工事も施工しました。



太陽門橋(本州四国連絡橋) 昭和60年(1985年)兵庫県～徳島県



伯方・大島大橋(本州四国連絡橋) 昭和63年(1988年)愛媛県



橋石島橋(本州四国連絡橋) 昭和63年(1988年)香川県



下津井瀬戸大橋(本州四国連絡橋) 昭和63年(1988年)岡山県～香川県



関西空港連絡橋(関西国際空港線) 平成2年(1990年)大阪府



龍見つばさ橋(首都高速道路) 平成6年(1994年)徳島県



白鳥大橋(北海道開発) 平成8年(1996年)北海道



名港中央大橋(日本道路公社) 平成9年(1997年)愛知県



明石海峡大橋(本州四国連絡橋) 平成10年(1998年)兵庫県



来島海峡大橋(本州四国連絡橋) 平成11年(1999年)愛媛県



多々羅大橋(本州四国連絡橋) 平成11年(1999年)広島県～愛媛県



島島大橋(広島県道路公社) 平成20年(2008年)広島県



東京ゲートブリッジ(国土交通省関東地方整備局東京港湾事務所)平成22年(2010年)東京都



伊良部大橋(沖縄県)平成25年(2013年)沖縄県

当社が建設に参加した巨大構造物Ⅱ

タワー



東京スカイツリー



東京タワー



福岡タワー



水戸芸術館シンボルタワー



神戸ポートタワー



大分グローバルタワー

当社が建設に参加した巨大構造物Ⅲ

ドーム



ナゴヤドーム

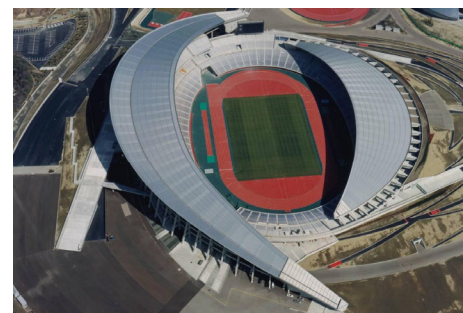


大分ドーム

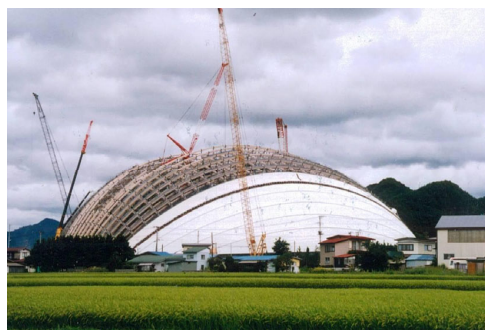


福岡ドーム

埼玉
スーパーアリーナ



宮城スタジアム



大館樹海ドーム



札幌ドーム



日産スタジアム